

韓国教育歴史の中の弘益人間の思想

金得永(東京韓国学校長)

I. 序論

教育思想は、各時代の生活様式や考え方にあらわれ、歴史的にどのような人間像が望ましいかを示唆することもある。教育思想の歴史的展開を見ると、時系列性に拘る傾向と空間の拡張性を重視する二つの潮流がある。神教文化により儒教仏教文化圏に再びキリスト教文化と混在した文化圏に移動しつつ、韓民族の原型文化を失ったまま生活圏が拡大し、進化論的資本主義の合理性に変化してきた。

私たちの国の弘益人間の理念は、儒教・仏教・東学・基督教などの思想の流入過程で形骸化し、諸外国との関係の中で比較優位国の文化や思想を盲目的に受け入れる制度の導入が、弘益人間の思想と独特な民族文化精神にどのように影響を及ぼしてきたのか、時代別教育思想を分析しながら、現在の文明の対案を模索してみようと思う。

II. 古代韓国の理想主義とアジア理想主義のルート

弘益人間のような人類の理想主義教育思想を理解するためには、『三国遺事』、『天符経』、『三一神話』、『参侏戒経』、『桓檀古記』、同様に古代韓国の重要古典思想を参照し、研究しなければならない。この資料は韓国とアジアの理想主義を研究する人々にとって非常に重要である。私たちは、Talmudと聖書を知らないで既成キリスト教を理解することができず、コーランなしにイスラム教理想主義を理解することができない。このようにアジア理想主義は、韓国の古典思想抜きには理解することができない。しかし、この研究に着手した学者たちはほとんどなく、むしろ専門家たちは日本と中国の植民地の遺産に頼り、他の理想主義運動の一神教的な理念に傾倒してきた。イホンボム博士は、アジアの理想主義に大きな影響を与えた古代韓国の理想主義の歴史と思想を研究せずして、アジア理想主義現象を理解することは難しいと強調している。また、より大きな文明と幸福、繁栄、そして平和な国際社会の理想と目標を達成するために、価値あるアジア人の知恵を発揮すれば、より

緊密な相互協力が可能になると見ている。¹

バイカル湖を含むロシア東部のシベリアは、かつては常に古代韓国朝鮮の一部であった。この地域は、古代の韓国ツングース人の文化、言語、宗教的伝統がいまも残っている。20世紀にロシアの画家カンディンスキーはシベリアのコミ地域を訪問した。「コミ」という地名は、韓国語「くま」から来ているようだ。彼が発見した空と山と自然を崇拜する慣習は現代にも残っている宗教的伝統だが、その崇拜は、古代韓国の理想主義の伝統と関連がある。シベリアにはプリヤトゥ族が多く、彼らは韓国を故郷の国と呼ぶ。これらの祖先は韓国のツングース族であった。ロシアの歴史家のクルリュチェフスキーは、ロシアの言語で書かれた彼の本「ロシア人の歴史」で、東北地域のツングース族が大きくロシアの政治文化に及ぼした巨大な影響を詳細に探索した。ロシア語チャルの語源は「カーン」で「カーン」は韓国語で「ハン」に由来し、それは、神、天、最高権力者という意味である。

古代アジアのアジア文明の中心は東北地域であった。最も賢明で強力な国家が古代韓国のツングース文明の姿で、北東アジアに現れた桓国・倍達・古朝鮮帝国であったが、文明は、おそらく9000年以前に開始され、ツングース族が古代朝鮮を立てた。

古代アジアの韓国人たちは、高い道徳性と強力な民権と軍事力を持った地球上で最も強力な理想主義国家を作ったと、イホンボムは主張している。1980年代半ばに、神崇拜と関連する古代アジアの文化遺物が、古代朝鮮韓国の一部であった中国遼寧地方で出土した。古代四大文明のみを文明の基調にしている学界は、古代韓国の理想主義文明の発見の観点から再検討するべきである。

III. 弘益人間の思想

1. 弘益人間の由来

弘益人間という言葉は、『三國遺事』古朝鮮条と『帝王韻紀』前朝鮮紀で、古朝鮮の建国過程を伝える内容の中に出てくる。『三國遺事』古朝鮮条では「古記にいわれた。その昔、桓因の息子の中に桓雄があったが、たびたび天下に意を見出して、人間世界に降りて行くことを望んだ。桓因が息子の意図を知っているサムウィ三危山と太白山を見下ろすと、弘益人間だけだと判断した。桓雄は

¹ Hong Beom R'hee, *ASIAN MILLENARIANISM*(N.Y.:CAMBRIA Press, 2007),pp.38-40.

天符と印を携えて五事²を主管し、世に神教³の真理を広めて人々を教え諭し(在世理化)、広く人々に益をもたらし(弘益人間⁴)、神市に都を定め(立都神市)、国の名を倍達⁵とした(國稱倍達)と伝える。これによれば、弘益人間とは桓因が桓雄を人間世界に送りながら提示した人間の指針であった。『帝王韻紀』では、桓因が桓雄に三危太白に降臨し弘益人間ができるかと、その意志を尋ね、そのような指示に応じて桓雄が地上に降りてきたものとなっている。

文献記録では、弘益人間は天神の桓因が人間世界に対して持っていた理想とされている。しかし、実際には桓国から続いた倍達と古朝鮮の建国に参加した遊牧民の九夷族の国家理念とされる。遊牧社会と農耕社会が共存しながら遊牧民の天孫族は騎馬民族の軍事力、天地人31ロゴスで熊族、豪族などの九夷部族を統合した。古朝鮮建国勢力である青銅器 韓民族が周辺の新石器時代の部族を広く支配するところに示された概念とみられる。中央アジアで桓雄が住み良いモンゴルと満州地域に移動して白頭山の下に新しい神市を建設し、農耕社会に必要な 風伯・雲師・雨師という管理を率いて主穀、主命、主病、主刑、主善惡など、人間世界の360余事を管掌した。

その際、弘益人間在世理化思想で生活と政治教育をしたものである。特に神市の蘇塗ソトという祭天場所で「天符經」を読んで覚えて平和な弘益世界を実現したものと判断される。九夷族の連合である檀君朝鮮を管理するのに必要な人類の精神文化の原型である「天符經」を覚え、講説しながら、神と自然の法則を実現する遊牧移動社会から、種族を安定的な農耕社会への移行に活用していたものと推定される。

2. 弘益人間の概念

弘益人間はしばしば「広く人間の利となるようにせよ」と解釈されるが、字義に忠実に解釈すれば

² 五事:牛加は農事を担当し(主穀)、馬加は王命を担当し(主命)、狗加は刑罰を担当し(主刑)、猪加は疾病の治療を担当し(主病)、羊加は善惡の判断を受け持った(主善惡)。(『太白逸史』『桓国本記』)

³ 神教:「神教」とは「以神設教」、「以神施教」の意味で、すなわち三神上帝様の教えを以て世を治める、という意味である。人類の始原宗教で、儒教、仏教、道教、キリスト教などのすべての宗教はここから枝分かれしていった。三神上帝様に祭祀を挙げる天祭は、神教文化の代表的な儀式であった。

⁴ 弘益人間:「広く人々に益をもたらす」という意味で、初代桓雄天王の建国理念。

⁵ 倍達:「明るい地」という意味。韓民族を倍達民族、倍達の同胞と言うのは、倍達という国が実在し、倍達の建国とともに韓民族の基礎が形成されたからである。

「他人を大きく助けなさい」となるだろう。それは人間のすべての価値に優先される思想である。弘益人間は「人間」を「公の利に資する」ような公共性構造になっている。「弘」は、「広く」よりも「大幅に」の意味が優先である。「広く」への「弘」は偏重されて独占され、不平等なものに反対されている意味であるが、「大きく」への「弘」は、規模が天地を覆うほどに大きな意味を抱いている。「益」は、「利する」、または「助ける」の意味であり、他人に祝福と徳を与える利他主義とボランティアの意味も含んでいる。

元暁の「大勝起信論疏」で弘益人間と同じような「弘益衆生」という用語が出てくることなどに注目した学者もいる。しかし、弘益人間は仏教が出る前の思想で檀君神話に本来含まれていた思想と観点を圧縮的に反映した思想でなければならない。檀君神話は長い間語り継がれてくるが、漢字が流入された後、採録される過程を経たが、口伝の檀君神話の中に含まれている建国目的や指向値に対応する内容が「弘益人間」で翻訳されたと推定される。檀君神話を漢文で最初に翻訳した新羅崔致遠先生は象形文字を天符經の趣旨と視点を正確に伝えること、適切な漢字語を見つけたらう。檀君神話は人間中心思想で一貫しており、弘益の対象を人間だけではなく、すべての生命と人間の世界にまで拡張された概念である。

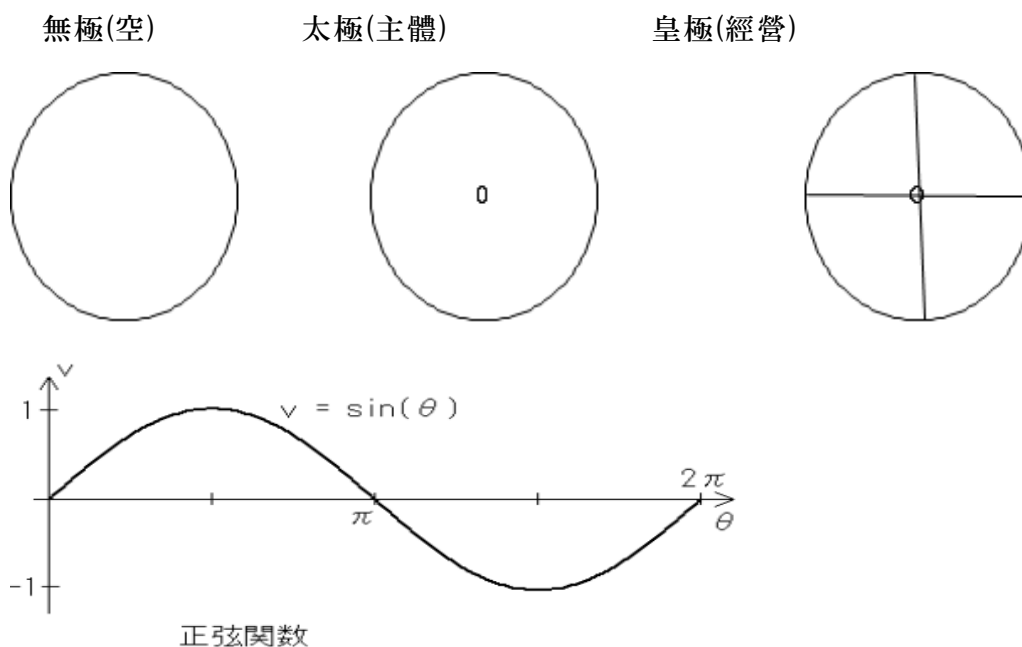
弘益人間が追求する価値については、宇宙と自然のロゴスにヒューマニストや人間尊重など仁義禮智信のような愛・奉仕・正義・共同体・平和など多くの点で説明されている。しかし、その重要な三つは ①国家と権力・市場・宗教・教育と科学技術などのすべての文明のデバイスは、人間社会のために分割するという人間主義的思想 ②人間のために奉仕する人生を偉大なものと見る桁の利他的倫理観 ③天地人のすべて神と一緒に超宗教的悟りの世界 などとすることができる。弘益人間は天地人合一の精神で、人間の世界の幸せと平和を志向する理想主義的で理念である。そして、一人一人にとってコミュニティや近所の人のために代価なしに奉仕する積極的倫理を提示する。

1945年政府樹立後、「教育法」が正式に制定されるとき法制化されることになる(1949.12)。「教育法」第1条では、「教育は弘益人間の理念のもと、すべての国民にとって人格を完成して自主的な生活能力と公民としての資質を育てて民主国家の発展に役立つし、人類共栄の理想実現に寄与することにするところを目的とする」と規定している。「文教概観」(1958)では、弘益人間を教育理念に採用された理由を、「弘益人間は、韓国の建国理念はあるが、決して偏狭で孤陋な民族主義理念の表現ではなく、人類共栄という意味で、民主主義の基本精神を満たしている理念」として、「私たちの民族精神の 精髓」でありながら、キリスト教の慈善精神 儒教の仁、そして仏教の慈悲心とも相通ずる

すべての人類の理想であることから捜している。

教育理念への弘益人間は教育が育てること人間像を提示したものでありながら、教育が追求すべき価値について規定したものである。いわば弘益人間することができる徳と能力 力量を持った人材を教育が育てなければならないというを意味と、教育は権力やお金のような価値ではなく、自分に役立てて自分と他人を助け生かし、人間のために奉仕する活動でなければならないという点を規定しているのである。

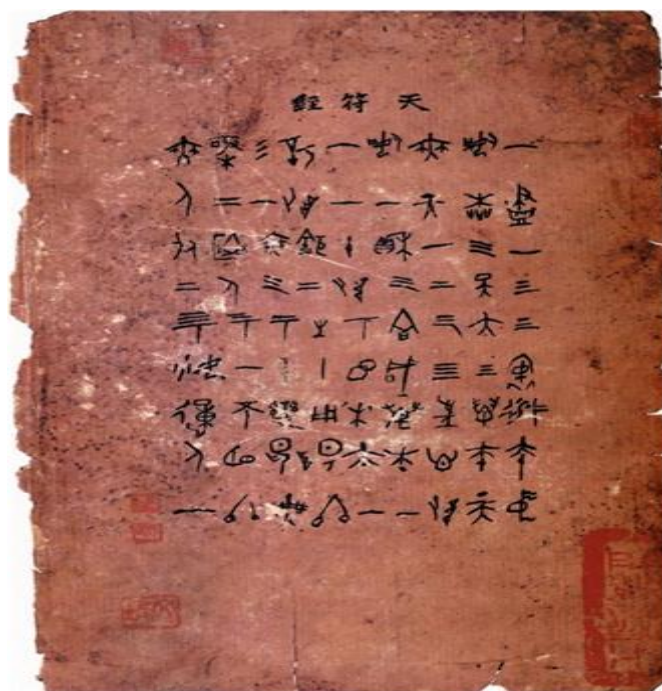
3. 弘益人間 解析の枠組み



自己		他者
自利害他	自利利他 (弘益人間)	
自害害他	自害利他	

4. 天符經の中の弘益人間のロゴス Logos

天符經は東西の最高の数理哲学書である。韓民族の先祖が作ったこの經典は、0-10までの数を



介^{かい}して、宇宙と自然界の真理と人間の生命の原理を説いたロゴスである。

天符經は桓国時代から語り継がれてきて倍達の初代桓雄天王の命令に神誌赫徳が当時象形文字の鹿圖文に記録した。古朝鮮時代に至って神誌が篆書に天符經を石に刻んで太白山に立てた。新羅時代崔致遠がこの文字を見て漢文で翻訳して妙香山石壁^{きざ}に刻んだ。1917年 雲樵 桂延壽が発見して解釈して今に伝えながら、多くの解釈と議論がされているのが実情である。

天符經の漢字内容からみれば、空の天、符籙の符、經典の經である。空のお守り、すなわち真理を盛り込んだ經典という意味である。ここで空とは天と地の人の理が統合されたものの空である。天符經はすべて81字になっている。縦横9文字ずつ書かれているが、それなら四角としても丸にも、また三角でもはいる。だから81が圓○、方□、角△の中にある入る。これを絵に描いてみると次の通りである。この圓○、方□、角△のは、それぞれ天、地、人を象徴である。

天符經が高麗時代の農隱集で発見された以上桓檀古記に導入された秘典がすべて虚構とすることはできない。またこの記事は、弘益人間と在世理化など独創的な思想を盛り込んでいるので、その思想を生んだ論理があったことを知ることができる。天符經は数理システムとして万物の生成を表現した独自の内容を示すので、多くの研究が必要である。

上古時代の精神文明の痕跡を探して考古学文献的ビジョンを十分に活用し、現代人類学の成果まで導入して立体的自己確立の努力が必要である。

これからは東アジアのルネッサンスを作る時代である。また、哲学的アプローチとして、形而上学の源を模索することも必要である。併せて、民族自尊思想を批判する人もいるが、民族のルーツの重要性は、永遠のものである。多方面からの源を探して、これを継承する努力は当然大切なものであり、批判の対象になることはないだろう。

桓国時から伝来した81字天符經が掲載された歴史書<桓檀古記>は非常に膨大な内容の本である。<桓檀古記>は雲樵 桂延壽先生が執筆した。昔から伝わる歴史書を集め、20世紀の初めに執筆した。その中に天符經が含まれている。歴史書<桓檀古記>に「天符經は天帝桓国から口伝の宇宙黙示録である。新羅時代崔致遠がかつて碑に刻まれた文句を見て世の中に伝えたのだ。その内容は次のとおりである。

上經

一始無始一。一つは、天地万物始まった根本で、無ではじまった。析三極無盡本。一つに分かれてい天地人三極として作用しても、その根本は尽きることがないと。天一一地一二人一三。天のもと精神は創造運動の根になって最初にされて、地の源の精神は、生命の生成運動を実現するので第二になって、人の源の精神は、天地の歴史の夢と理想を実現して第三になるので、一積十鉅无匱化三。一つは生長して開くまで開かれるが限らない調和として3数の図をなす。

天符經中經

天二三地二三人二三。天も陰陽の運動3数に戻り、地も陰陽の運動3数に循環して、人も陰陽の運動3数として生きて行く大三合六生七八九。天地人大きい3数が合わせ6になるので、生長性7,8,9を生ずる。

運三四成環五七- 天地万物3と4数の変化一言運行して5と7数の変化の原理循環運動だ。

天符經下經

一妙衍萬往萬來。一つは、幽玄に循環運動を繰り返して用變不動本。調和作用無限無窮その根本は変わらない。本心本太陽昂明- 根本は心だから、太陽の根本置いて、心の大光明は明るく明るく人中天地一。人は天地中心尊いでいるから一終無終一。

一つは、天地万物の終わりを結ぶ根本であるが、無に戻り一つである。

IV. 韓民族の教育思想

1. 古代の教育思想

『天符経』、『三一神誥』の三神と七星思想

2. 中世の教育思想

高麗時代の学校教育は儒教の經典に頼っていた反面、一般市民達には仏教が流行した。高麗王朝は開創以来、治国を図り、政治制度もこれに従うことによって科挙制度を推進した。文臣の地位は日に日に上がる一方、武臣の地位は低くなり、その結果、崇文輕武思想が顕著になった。

3. 朝鮮前期の教育思想

・ 性理思想と教育

聖人は学ぶため存養(存心養性)に努めることだ。理學者達は宇宙の根本原理を探究し、天人の関係を看破し、人生当為の本来の義務を発見しようとした。すなわち、宇宙哲学で倫理哲学を説明して、この哲学で教育哲学を演繹させた。性理学の教育目的は倫理、道德に中心を置き、先人の養成に当たり、最終目的は聖人の域に到達することにあった。

我が国の性理学者が追求した教育人間像は 聖人であり、醇儒であり、眞儒(儒教の道を真に体得した儒学者)であり、彼らは既に 선비 선비士であった。そして、当時そのような理想上の実践者の一人として、李滉を挙げることができる。

4. 朝鮮後期の教育思想

・ 実学思想と教育

朝鮮後期の教育思想は「実学」に尽きる。この時期の特出した教育思想家の一人が李滉である。彼は特に「崇禮」と勤儉思想を強調した。李滉は、人間が他の動物と区別される基準を「礼儀」に置いた。しかし、当時は(王侯貴族から)士大夫の子弟まで、書画をはじめとする骨董品に非常な関心を持っていて、これらの鑑賞に余念がなかったが、礼を説く古典を敬遠して、これを学ぼうと努めない風潮を嘆いた。

5. 近代の教育思想

- ・ 民族思想と教育

6. 現代の教育思想

民主思想と教育 我が国の教育理念の確立

V. 弘益人間の理念について韓民族教育の歴史の反省と課題

韓民族は、長久な歳月の間、延命してきたが、古代史と近現代史が歪み、縮小、消滅してきた。
(V-1) 韓国史の時期ごとに 遊牧と農耕文化の分析から分かるように、三国時代以降 外國侵掠と先進国の文化や文物の急速な流入により宗教、産業、教育制度などが変化するようになった。

産業化と民主化の成功により、民族の歴史に対する歴史主権を回復しようとする弘益人間の精神を実現しようとする新たな動きも出てきているのが実情である。また、1980年代以降、中国の万里の長城以北の内モンゴル自治区と遼河地域の紅山文化、遼河文明から出てきた女神墓、祭壇、積石塚、玉器文化、琵琶型銅剣 夏家店 上層文化は、中国中原の文化と異なった古朝鮮、高句麗などの北方民族の文化様式であることを知ることができる。

弘益人間の理念の実践は、天地人の宇宙の原理を理解し、人間理想の知恵を悟っているべきである。しかし、現実には陰と陽の調和よりも目的と手段の合理性に作られた教育システムである。個人の知恵よりも知識の暗記、協調による競争と序列中心の学力競争に、人間教育が失敗した状態である。今からでも宇宙と人間の調和と覚醒を通じた知恵を、私たちの祖先が残した天符經の中に見出し、弘益人間世界をつくるために努力するべきだ。

弘益人間文化、つまり光明文化と共有経済の文化を教育と生活に統合した時期は、倍達や古朝鮮時代だった。

これからデジタル遊牧民 Digital Nomad の時代が開かれ、また韓民族の隠れた DNA が花を咲かせ始める。韓流や世界の主要大学では韓民族の学生たちが頭角を示し、植民地支配から開放されて 70 年ぶりに自由民主国家として、世界第 10 位の経済大国として、また文化大国として浮上している。

弘益人間の理念に相応しい歴史と文化教育システムを構築して、デジタル遊牧時代に相応しい
 和白民主制と人間と自然と一緒に暮らす三一思想、全ての人間が歴史と文化の主人公として生き
 る光明世界や全ての人類と国家と一緒に成長発展する弘益人間の世界を作る教育が必要だ。

(V-1) 韓国史時期別の遊牧農耕文化の分析

遊牧文化(共有, 分権, 變化)		
古朝鮮 夫餘 高句麗 渤海	三國時代 高麗	農耕文化 (所有, 階級, 順應)
大韓民國	高麗後期 朝鮮	

参考文献

- 『韓國教育史』(韓基彦, 博英社, 1963)
- 『韓國教育思想史』(孫仁銖, 載東文化社, 1964)
- 『韓國新教育史』(吳天錫, 現代教育叢書出版社, 1964)
- 『韓國教育史』(韓國教育學會 韓國教育史研究會, 教育出版社, 1972)
- 『韓國思想과 教育』(韓基彦, 一潮閣, 1973)
- 『韓國儒學思想과 教育』(韓國教育學會 韓國教育史研究會, 三一閣, 1976)
- 『韓國教育哲學의 構造』(韓基彦, 乙酉文化社, 1977)
- 『教育名著解題』(韓基彦 編, 韓國能力開發社, 1979)
- 『韓國忠孝思想과 國民精神教育』(金益洙, 成均館, 1980)

『韓國教育史研究의 새 方向』(韓國教育學會 韓國教育史研究會, 集文堂, 1982)

『朝鮮時代의 教育名著巡禮』(丁淳睦, 培英社, 1986)

「教育思想家評傳 I · II · III」(韓基彥 外, 教學社, 1987)

「狀況과 基礎」-球象教育哲學으로서의 基礎主義(韓基彥, 서울大學校 出版部, 1990)

『教育の探求の歲月』(韓國教育學會 編, 教育科學社, 1993)

『韓國近現代教育史』(教育倫理研究室 編, 한국정신문화연구원, 1995)

『韓國の現代教育哲學』(한기언, 도서출판 하우, 1996)

『價值觀의 變動과 道德性回復』(정해창 외, 한국정신문화연구원, 1996)

『教育의 世紀와 基礎主義』基礎主義 40 周年記念行事準備委員會, 教育科學社, 1997)

『基礎主義教育學』(韓基彥, 學志社, 1998)

[네이버 지식백과][教育思想] (韓國民族文化大百科、韓國學中央研究院)

<http://terms.naver.com/list.nhn?cid=44621&categoryId=44621>

科目No.	共催講座KT724	科目名	韓国学a				副題	韓国の歴史と文化の理解			
連携機関名	東京韓国学校	水準	中級	教室定員	30	配信定員	0	講義日時	水曜日18:30～20:30	拠点 (開講機関)	東京・東京韓国学校 (東京韓国学校)
科目概要(300字)	歴史を学ぶ真の目的とは、過去への理解を通じて現在を正しく認識し、明るい未来を築くことにある。歴史に対する正しい認識は、現在の私たちが抱えているさまざまな問題や、これから生起するであろう新たな問題を解決する能力を育み、現在の私たち個々人の生を主体的に歩むための道を明確にするであろう。韓国の歴史を、古代国家形成と発展過程の特徴、各時代別の歴史的特性と文化芸術などを中心に追いながら、近隣諸国がお互いに影響を与え合いながら発展して来た道のりを確認し、その中で特に韓日両国の深い歴史文化的関係を中心に考察しようとする。										

科目構成	No.	講義	講義概要(150字)	講義日	開講場所	取纏め者	講師	所属
古代韓国の形成と発展および文化芸術	1	古朝鮮の歴史と文化	本講座の意義と韓民族の歴史年表を紹介する。古朝鮮は広く人を利するという「弘益人間」の精神をもとにしている。桓檀古記、三国史記などで明らかにした韓民族の移動経路に生じた様々な歴史と文化を論ずる。	2016/10/19	東京韓国学校	金得永	金得永	東京韓国学校 校長 前京畿教育学会 会長
	2	三国時代の歴史	韓国の古代歴史を日本とのつながりの中で論じる。特に、時代劇ドラマ(太王四神記、朱蒙、善徳女大王、大王の夢等)を通じて古代社会の神話と社会を紹介する。	2016/10/26			諸恵珍	東京韓国学校教師
	3	「在日」の暮らしや意識の変化と日本の中の現代韓国文化	戦前より日本に定住する朝鮮半島出身者とその子孫、いわゆる「在日韓国人・朝鮮人」の戦後から現在に至る暮らしと意識の変化を論じる。また「韓流ブーム」を契機とした「在日」や「韓国」に対する日本人の意識の変化を、「韓流ブーム」以前と以後を比較しながら検証し、日本の中の現代韓国文化について考察する。	2016/11/3			崔美貴	日韓詩人文学交流会理事 韓国「時調生活」同人 日本「時調の会」理事
	4	韓国音楽の遺産	上古時代から日韓併合時代までの音楽の流れを把握し、時代別の代表楽器と朝鮮時代における儒教思想をベースにした宮廷音楽と庶民音楽を紹介する。また日本の山形県の民謡、最上川舟唄(もがみがわふなうた)と韓国慶尚道の舟唄(벚노리)という二つの仕事歌の共通点を探り、比較しながら論じる。	2016/11/9			裴恩卿	東京韓国学校教師
	5	韓国教育制度の歴史	三国時代から近現代までの教育制度の形成と発展過程を、教育理念「弘益人間」の実現の観点から論じる。	2016/11/16			金得永	東京韓国学校 校長 前京畿教育学会 会長
高麗、朝鮮の形成と移り変わり	6	高麗の建国と東アジアの情勢	王建は松岳の豪族出身で禮成江の豪族勢力と連合し成長を遂げ、後に高麗を建国した。彼は高句麗の後継者を自称し、民心をなだめ、豪族の勢力を懐柔しながら国を強くしていった。10世紀の韓半島の状況は、ある意味現代の東アジアと似通っているといえる。多角的な比較と推論を通して、総合的に中世の入り口を考察する。	2016/11/23			趙亨道	東京韓国学校教師
	7	高麗から朝鮮へ	1392年に高麗の武將李成桂太祖が恭讓王を廃して、翌1393年に中国の明から権知朝鮮国事に封ぜられた。朝鮮の歴史は、国内政治的には、建国から端宗までの王道政治の時代、世祖の王権篡奪から戚臣・勲臣が高官をしめる時代、士林派による朋党政治、外戚による勢道政治の区分に分けられるが、包括的に朝鮮近世史の流れを紀伝式に紹介す	2016/11/30				
	8	韓民族の科学技術	韓民族の悠久の歴史の中、様々な背景のもとで科学技術が発展した。それは建築、製紙、鋳物、陶器、印刷、武器、火薬などの技術に加え、地理、天文、宇宙、数学などの科学、さらに医学や文字など幅広い分野に渡る。李氏朝鮮までの時代区分に従い、代表的な科学技術を紹介し、歴史的背景や逸話、日本との関係にも触れる。	2016/12/7			洪政國	前東京大学教授 在日韓国科学技術者協会顧問
	9	朝鮮の美術	先人たちの暮らしや美意識を反映した石造、山水画、工芸などの朝鮮王朝時代美術作品を通して、その持ち味と美しさの中に込められた歴史の意味を探る。朝鮮時代以前美術、朝鮮前中期美術、美術文化のルネサンスである朝鮮後期美術を時代の流れに基づき考察する。	2016/12/14			尹ゴウン	東京韓国学校教師
	10	韓国伝統舞踊と演技	韓国舞踊とは、韓国の伝統文化のもとに作られたすべての舞の総称で、宮中、民俗、仮面、意識、創作舞踊に分類される。時代別に舞踊の特徴を考察するとともに、80年代半ばから起きた新舞踊の中から舞い手個人の物語を表現する創作舞踊の生成背景を紹介しつつメソッドを直接体験する。	2016-12-21			朴景蘭	
	11	古代時代の詩文学の変化	制度疲労した朝鮮王朝の排他的支配体制の崩壊と共に、王朝の指導理念であった儒学を背景とする漢詩文学も衰退する。植民地支配の中で抵抗文学の性格を帯びて生み出された西洋近代自由詩を受容した新詩運動と、伝統定型詩である時調の復興運動という韓国の詩文学の新たな二つの潮流を紹介する。	2016/12/28			金一男	日韓詩人文学交流会理事 韓国「時調生活」同人 日本「時調の会」理事
	12	近代国家の概念と歴史	排他的な民族主義を基にした歴史認識が人類の平和を脅かす要因になるとの視点から、韓国や日本などの近代民族国家について考える。一つの生産単位として専有権を持つ国家体制が最終的には世界大戦に巻き込まれた事実を考えながら、このような悲劇を繰り返さないためにはどのような視点が必要かを考える。	2017/1/11			宋錫鍾	千葉韓国教育院長
	13	日韓併合時代の朝鮮近代文学ー植民地留学生、尹東柱と李光洙	日本留学を経験した文人たちの中でも韓国で最も愛されている詩人と小説家であり、韓国近代文学を語るときに欠かすことのできない尹東柱と李光洙について、日本での留学生生活に焦点を当てながら代表作を紹介する。韓国の中高生たちが必ず学ぶ二人の代表作を通して、植民地留学生としての彼らの生活や心情に思いを馳せる。	2017/1/18			申玉先	東京韓国学校教師
近現代史の変化	14	韓流と日韓関係の変化ーその以前と以後ー	時代によって目まぐるしく変わってきた日韓関係の動きを、韓流に焦点を合わせて、その前後の変化に着目しながらまとめる。政治・外交及び文化にまで大きな影響を及ぼしてきた韓流が、これから日韓関係にどのような影響を与えていくのか、近年の動向を探る。	2017/1/25			申景浩	国士舘大学21世紀アジア学部 教授,韓国日本近代学会 会長
	15	韓日二つの祖国を生きる	在日同胞2世の美術コレクターとして、日本と韓国の美術館にコレクションを寄贈して日韓の架け橋となった浅川伯教と巧兄弟の精神を韓国と日本に伝えるために毎年開催されている清里銀河塾を紹介しながら、分ち合う心を伝える。	2017/2/1			河正雄	秀林文化財團理事長 朝鮮大學校名誉美術學博士